

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：34503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25360056

研究課題名(和文) 近世・近代の尼門跡を中心とした女性ネットワークの研究

研究課題名(英文) Research on the social networks of women: Focusing on the roles of ama monzeki in the early modern to modern periods

## 研究代表者

岸本 香織 (KISHIMOTO, Kaori)

大手前大学・総合文化学部・非常勤講師

研究者番号：40440903

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、尼門跡の尼僧と周辺の公武女性たちが社会に積極的に関わる実態を明確にすることを目的に、霊鑑寺新出文書調査、尼寺文書研究会開催と慈受院蔵「総持院触留」講読、近世・近代の尼門跡を中心とした女性ネットワークの研究、の3点から研究活動を進めた。研究期間内に、霊鑑寺文書調査を5回実施して新出文書660件を目録化、さらに尼寺文書研究会を30回開催して享保13年(1728)～延享4年(1747)の「総持院触留」20冊を講読した。これら成果を纏める形で、論文2本、霊鑑寺文書目録、「総持院触留」史料集を収載した報告書を刊行、尼門跡寺院の社会的活動の支持層が庶民階層にまで広がることが明確となった。

研究成果の概要(英文)：This project researches on how imperial women, nuns of ama monzeki (imperial convent) and koku josei (women of the imperial court and samurai class), actively involved in and related to the society. This project took three approaches: 1. Survey on the newly discovered documents in the collection of Reigan-ji; 2. Holding research meetings on convent documents and reading through "Soji-in furedome" in the collection of Jiju-in; and 3. Study on the role of convents within social networks of women in the early modern and modern periods. The members of this project have made five research visits to Reigan-ji and made a list of 660 documents in the collection. In addition, the members held 30 meetings, and read through 20 volumes of "Soji-in furedome". As a result of this project, two journal articles and the survey report were published. This research project has revealed that social activities of the convents were supported not only by the ruling class, but also the lay society.

研究分野：日本史

キーワード：ジェンダー 女性 比丘尼御所 尼寺

1. 研究開始当初の背景

平成11年度から科学研究費補助金を得て、尼門跡寺院の文書調査を活動の中心とした以下の研究が行われた。

**(1) 課題名：「中・近世文書にみる尼門跡寺院の歴史的変遷と生活文化、尼僧の信仰研究」、種目：基盤研究(B)、期間：平成11～13年度、課題番号：1141009、研究分野：日本史、研究代表者：相愛大学教授西口順子**

尼門跡寺院は、近世に皇女・王女・公家の子女が入寺した比丘尼御所を前身とする尼寺で、京都の大聖寺・宝鏡寺・光照院・曇華院・靈鑑寺・林丘寺・慈受院・三時知恩寺・宝慈院・本光院・瑞龍寺(現在滋賀県)、奈良の円照寺・中宮寺・法華寺である。その多くが近世・近代文書を多数所蔵し、また尼僧の信仰生活と文学・芸能・美術などの宮廷文化が明確となる大量の資料が保存されている。

研究代表者：西口順子は、平成10年度相愛大学特別研究助成(課題名「尼門跡寺院の調査と研究」)を得て、前年度に光照院門跡の予備調査を行ったが、その成果をもとに、岡佳子(大手前大学)・牧野宏子(関東学院大学)を研究分担者に、本格的な尼門跡調査を開始した。

本研究では光照院門跡に残る近世・近代文書、絵画・書跡・陶磁器等の美術品を調査し、平成12年度から靈鑑寺門跡の調査を始め、平成13年度には中宮寺門跡の予備調査を実施した。光照院文書調査はほぼ終了したが、靈鑑寺・中宮寺の調査は完了せず課題として残った。

**(2) 「尼寺文書調査を基盤とした日本の女性と仏教の総合研究」、基盤研究(B)、平成14～17年度、14310165、日本史、大手前大学人文学部助教授岡佳子**

前研究において文書調査には一定の成果を得たが、近代へと視野を広げ、美術工芸品を調査する必要性、仏教儀礼での尼僧の役割を明確にすること、尼門跡と一般尼寺との比較、古代・中世の女性と仏教の研究成果へのリンクなどの新しい課題が生じてきた。

これらの新課題を盛り込む形で、岡佳子を研究代表者に、研究分担者として西口順子・牧野宏子、前研究で研究協力者であった岡村喜史(龍谷大学)・牛山佳幸(信州大学)・原田正俊(関西大学)・杉田善雄(大手前大学)・高木博志(京都大学)・切畑健(大手前大学)・松浦典弘(大手前大学)を研究分担者に加えて研究組織を構成した。

本研究では、中宮寺・靈鑑寺の文書調査を継続し、平成15年度より慈受院門跡を調査に加えた。靈鑑寺調査はほぼ終了したが、中宮寺と慈受院の調査は完了せず課題として残った。また尼寺文書研究会を7回開催して、古代から近代までの女性と仏教と女性に関する13の報告を行った。最終的には論考と光照院所蔵文書目録とを掲載した報告書を

作成、成果を公開した。

**(3) 「日本の宗教とジェンダーに関する国際総合研究 尼寺調査の成果を基礎として」、基盤研究(B)、平成18～20年度、18310171、ジェンダー、大手前大学人文学部助教授岡佳子**

前研究によって、女性自身の手による尼門跡文書をもとに宗教におけるジェンダーの問題が明確になり、調査に参加した海外研究者との交流を通じて国際総合研究の可能性も見出されたため、中宮寺・慈受院文書調査終了とともに、これらを課題として設定した。

研究代表者岡佳子。前研究分担者に、中世仏教史の平雅行(大阪大学)、古代仏教史の勝浦令子(東京女子大学)・吉田一彦(名古屋市立大学)、日本絵画史の原口志津子(富山県立大学)、さらに研究協力者であった佐藤文子(佛教大学)を加え、研究組織を構成した。平成20年度には、西口順子・杉田善雄・佐藤文子が連携研究者へ移行、新たに岸本香織(京都造形芸術大学)が連携研究者に加わった。

研究期間内に中宮寺・慈受院の文書調査を終了した。靈鑑寺の書跡・絵画調査の実施し、尼寺研究会を5回開催した。平成19年11月には、米国ハーバード大学において、ラインシャワー日本研究所・大阪大学荒木浩・伊井春樹氏の科研プロジェクトと共催で国際シンポジウム“BEYOND BUDDHOLOGUY: NEW DIRECTION IN THE STUDY OF BUDDHISM”を開催し、第一日目‘WOMEN AND THE HISTORY OF JAPANESE BUDDHISM’に、研究代表者・研究分担者11名と阿部龍一氏(ハーバード大学教授)他、米国研究者8名が参加し、基調発表と「宗教とジェンダー」「尼僧の歴史」「尼寺とその周辺」「美術・工芸品に見る女性の信仰」の4パネルで報告を行い、研究成果を海外へと発信した。最終年度の平成19年度には、4冊の調査報告書を刊行し、「本文編」には国際シンポジウムの記録、5編の論文・史料調査概要等を収載した。各門跡の文書目録は、それぞれ「靈鑑寺文書目録」、「中宮寺文書目録」、「慈受院文書目録」に掲載した。

これまでの過去十年間にわたる研究によって、光照院・靈鑑寺・中宮寺・慈受院の4ヶ寺の文書調査、日本の女性と宗教に関する論考の報告書掲載刊行、国際シンポジウムにおける海外への成果発信ができたが、歴大な文書を活用して研究の深化を目指すことが課題となった。

**(4) 「日本の宗教とジェンダーの研究 近世社会における尼僧と尼寺の役割」、基盤研究(B)、平成21～24年度、21310172、ジェンダー、大手前大学総合文化学部教授岡佳子**

前研究から、女性自身の手による近世・近代の尼門跡文書によって、寺院を背負う立場にある尼僧たちが積極的に社会に関わっていく姿が明確に浮かび上がってきた。比丘尼御所は閉じられた世界などではなく、社会に

開かれた場所であった。この事実は日本の宗教とジェンダーを考える上で極めて重要であると考え、本研究では、尼門跡文書の分析を通じて、近世社会における尼僧と尼寺の役割を明らかにすることを課題目的とし、慈受院門跡所蔵の「総持院触留」の研究、尼僧を中心とした女性ネットワークの研究、比丘尼御所、霊鑑寺門跡の工芸品の調査の3点から研究活動を行った。

研究代表者を岡佳子、研究分担者を岡村喜史（平成22年度より研究協力者）、連携研究者を西口順子・杉田善雄・牧野宏子・佐藤文子・岸本香織（平成23年度より研究分担者）、研究協力者を切畑健、加えて水谷友紀（平成22年度より連携研究者、平成24年度より研究協力者、元興寺文化財研究所）、青谷美羽（平成22年度より連携研究者、京都造形芸術大学）で研究組織を構成した。さらに平成22年度より原口志津子が連携研究者、平成23年度より高橋大樹（大津市歴史資料館）が研究協力者として加わった。

本研究において、尼寺文書研究会を34回開催、公儀が比丘尼御所に下した触を収録した慈受院蔵「総持院触留」20冊（元禄～享保初期）を翻刻し、また霊鑑寺美術工芸品調査を実施した。「総持院触留」翻刻と論考を収載した報告書を作成し、研究成果を公開した。

しかし江戸中期以後の触留帳は未翻刻のまま残り、さらに霊鑑寺調査の過程で多量の日記・文書が新出史料として出現し、これらの調査・研究は将来の課題として残った。また新たな研究課題として、尼門跡寺院（比丘尼御所）を中心とする公武方女性ネットワークの問題も生じてきた。

## 2. 研究の目的

現在、京都・奈良には、近世に皇女・王女・公家の娘が入寺した比丘尼御所を前身とする9ヶ寺の尼門跡と呼ばれる寺院が残る。本研究では、前述の研究成果を基盤としながら、さらなるジェンダー資料の充実を計るとともに、従来、閉鎖的な空間と考えられてきた尼門跡寺院が開かれた場所であり、そこで尼僧と周辺の公武女性たちが社会に積極的に関わる実態を明確にすることを目的とした。そのために設定したのが、霊鑑寺文書調査、「総持院触留」の翻刻という継続課題に加え、尼門跡寺院の尼僧を中心とした公武方女性ネットワークの研究という新たな課題であった。そこで、霊鑑寺の新出文書の調査、尼寺文書研究会の開催と慈受院蔵「総持院触留」の講読、近世・近代の尼門跡（比丘尼御所）を中心とした女性ネットワークの研究、この三方向から研究をすすめた。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究の役割と研究課題の設定

本研究において、研究代表者・研究分担者・連携研究者はそれぞれ役割を定めるとともに、近世・近代の尼門跡（比丘尼御所）を

中心とした女性ネットワークに関する課題を設定して研究を進めた。

研究代表者：岸本香織（研究の統括・調査の実施・研究会の開催、天明の大火後の比丘尼御所の復興と女性ネットワークの研究）、研究分担者：岡佳子（「総持院触留」研究会を主担当、霊鑑寺蔵工芸品にみる尼僧・在俗女性のネットワーク研究）・青谷美羽（霊鑑寺調査の主担当、近代における尼門跡の実態と公家方女性のネットワークの研究）、連携研究者：杉田善雄（「総持院触留」史料集の編纂指導、近世の門跡と比丘尼御所の比較研究）。これに加え、研究協力者として西口順子（研究全般に対する指導・助言）・岡村喜史（「総持院触留」編纂副担当）・高橋大樹（「総持院触留」講読副担当）・水谷友紀（霊鑑寺調査副担当）が研究に参加した。者として西口順子（研究全般に対する指導・助言）・岡村喜史（「総持院触留」編纂副担当）・高橋大樹（「総持院触留」講読副担当）・水谷友紀（霊鑑寺調査副担当）が参加した。

### (2) 霊鑑寺の新出文書の調査

平成25年度（2回）  
・9月15～17日、2月9～11日  
日記の整理及び約420点の文書調査作成。  
平成26年度（2回）  
・9月14～16日、2月14～16日  
約300点の文書調査作成。写真撮影。  
平成27年度（1回）  
・9月20日～22日  
文書調査作成終了、成果データの確認・整理、目録化（全660件）。写真撮影終了。

### (3) 尼寺文書研究会の開催

本研究では、通常月1回の割合で尼寺文書研究会を開催し、朝廷・幕府から武家伝奏を通じ比丘尼御所に発給された公儀触、及び比丘尼御所から武家伝奏を通じ朝廷・幕府へ提出した文書を書き留めた慈受院蔵「総持院触留」を研究組織全員が分担箇所を決め、それらを講読、翻刻を行った。さらに、平成27年度には研究報告も実施した。会場は全回アスニー山科。

その概要は以下の通りである。  
平成25年度 第47～56回（全10回）  
日程：4月27日・5月12日・6月30日・7月15日・8月24日・10月6日・11月17日・12月22日・1月26日・3月2日  
内容：享保13～21年「総持院触留」（8冊）の講読  
平成26年度 第57～66回（全10回）  
日程：4月26日・5月25日・6月8日・7月21日・8月24日・10月11日・11月24日・12月23日・1月17日・3月22日  
内容：元文2年～寛保4年「総持院触留」（8冊）の講読  
平成27年度 第67～76回（全10回）  
日程：4月5日・5月4日・6月14日・7月25日・8月9日・10月11日・11月14日・12月13日・1月11日・2月6日  
内容：延享2～4年（4冊）の講読、前年度ま

での講読分を含む計 20 冊を報告書掲載のために再読、岸本香織・岡村喜史が史料校訂と史料集原稿作成を担当、岡佳子これを補助。関西大学大学院生仲田侑加による研究報告「近世中後期における尼僧集団 長福寺を事例に」(第 72 回、10 月 11 日)。

#### (4) 研究報告書の作成

最終年度である平成 27 年度後半には、今回の研究成果を纏めるため、尼寺文書研究会における慈受院蔵「総持院触留」の講読、靈鑑寺文書目録及び各研究者の研究を収載する研究報告書(全 214 頁)を編集、平成 28 年 2 月 29 日に刊行した。内容は下記の通りである。

研究概要 岸本香織

論考

比丘尼御所をとりまく女性たち

靈鑑寺宮宗諄の活動を中心に

青谷美羽

天明大火後の復興に関する一考察

光照院と総持院の対比

岸本香織

靈鑑寺文書目録

靈鑑寺文書について 青谷美羽

慈受院蔵「総持院触留」史料集

慈受院蔵「総持院触留」 享保十三年から延享四年の翻刻

岸本香織

#### 4. 研究成果

「近世・近代の尼門跡を中心とした女性ネットワークの研究」と題した本研究では、靈鑑寺の新出文書の調査、尼寺文書研究会の開催と慈受院蔵「総持院触留」の講読、近世・近代の尼門跡(比丘尼御所)を中心とした女性ネットワークの研究、の三点を課題とし、ジェンダー資料の拡充とともに研究の深化を試みた。

30 回の尼寺文書研究会を開催して、慈受院蔵「総持院触留」の講読と翻刻を行った。約 160 冊に及ぶ「総持院触留」のうち 20 冊ではあるが、史料集として報告書に掲載することができた。僅かずつではあるが、前研究から引き続き、着実に学界へ新資料を提供し続けている。本報告書に掲載した解題「慈受院蔵「総持院触留」 享保十三年から延享四年の翻刻」(岸本香織)にて述べている通り、本史料は『京都町触集成』『妙法院日次記』収載の公儀触との比較が可能であるが、『妙法院日次記』が欠けている年の公儀触についても「総持院触留」から知ることができ、本史料集公刊の意義は大きい。

靈鑑寺門跡の新出文書 660 件についても調査、目録化ができた。靈鑑寺文書は過去の調査においてなされていたが、この新出文書調査により、これまで不明であった靈鑑寺門跡第四世観山宗恭(1769~1821、閑院宮典仁親王王女)ならびに第五世法山宗諄(1816~1890、伏見宮貞敬親王王女)に係る文書類の存在が明らかになった。特に宗恭に関しては

和歌懐紙なども多く、他に類を見ない女性の手による国文学資料としても貴重なものである。今後の諸研究を進展させる上で重要な資料目録となることは間違いない。

また、研究期間中に関係資料の調査・収集も行っている。青谷美羽は宮内公文書館、国立公文書館に出張し、近世・近代の尼寺に関する資料の調査・閲覧を行った。このうち宮内公文書館では資料撮影も合わせて実施し、3 年間で約 250 点の撮影を終えた。

本報告書には、論考 2 本も掲載している。青谷美羽は、比丘尼御所の尼と公家方の女性たちとのつながり、ひいては比丘尼御所が担う役割をより具体的に明らかにしてゆくことを目指し、靈鑑寺宗諄を中心とする人的交流の分析を試みる論考を執筆した。岸本香織は、天明の大火(1788)で焼失した殿舎の再建に際して幕府から潤沢な下賜金を拝領した光照院と、再建がなかなか果たせず、後には自力での毘沙門堂再建を目指す総持院との両者を比較しつつ、それを支えた階層に関する論考を執筆した。これらの諸研究から、近世・近代の尼門跡を中心とした女性ネットワークについて、公武の女性を中心にしながらも、庶民を含む広い階層にまで広がることが明らかとなってきた。

これらの研究によってジェンダー資料の充実を計るという継続課題は、順調な成果を得ることができたが、「総持院触留」の翻刻は、まだ一部を終えたにすぎず、幕末まで 120 点余が残る。また、課題としてあげた尼門跡を中心とした女性ネットワークの研究は、個々の研究において進捗を見せたとはいえ論考としてまとめた部分は僅かにとどまる一方、尼門跡と一般尼寺との比較考証、特にその支持者を考えるという問題が浮かび上がってきた。内容的に十分な成果をあげたとは言いがたく、これらの諸点を将来の課題として研究を継続していきたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7 件)

論文

1, 岸本香織「天明大火後の復興に関する一考察 光照院と総持院の対比」、『平成 25 年度~27 年度科学研究費助成事業(基盤研究(C))研究成果報告書 近世・近代の尼門跡を中心とした女性ネットワークの研究』、25-30 頁、2016 年

2, 青谷美羽「比丘尼御所をとりまく女性たち 靈鑑寺宮宗諄の活動を中心に」、『平成 25 年度~27 年度科学研究費助成事業(基盤研究(C))研究成果報告書 近世・近代の尼門跡を中心とした女性ネットワークの研究』、19-24 頁、2016 年

3, 岡佳子「光悦と朱屋田中勝介・宗因」155-182 頁・「光悦の陶芸」269-308 頁、河野元昭編『光悦 琳派の創始者』、宮帯出版社、

2015年

4, 岡佳子「仁清と乾山 その形と文様」、『美術フォーラム 21』第 29 号「特集：やまと絵と琳派の交流」, 82-91 頁、査読有、2014 年 5 月、岡佳子「欧米の美術館・博物館が所蔵する京焼について 17 世紀を中心に」、石毛弓・柏木隆雄・小林宣之編 大手前大学比較文化研究所叢書 10『日仏文学・美術の交流 「トロンコワ・コレクション」とその周辺」』、3-10 頁、思文閣出版、2014 年

6, 岡佳子「Chigusa in the Early 17<sup>th</sup> Century」p.160-p.170、「The Jar with Design of Mynah Bird by Nonomura Ninsei」p.171 -p.173、「Handbook on Jar Deciration and Knot-tying by Hisada Kokosai」p.193 -p.195、Louise Allison Cort, Andrew M. Watsky 編「Chigusa and the Art of Tea」The Arthur M. Sackler and Freer Gallery of Art: the National Museums of Asian Art at the Smithsonian Institution、2014 年

7, 青谷美羽「京都の富士垢離と行家」、『本山修験』196 号、32-36 頁、聖護院門跡、2014 年

〔学会発表〕(計 10 件)

1, 岡佳子 研究報告「琳派と乾山焼」シンポジウム『美術フォーラム 21』:「生活美術としての琳派」、主催：一般社団法人美術フォーラム 21/協賛：醍醐書房、於京都国立近代美術館(京都市)、2015 年 7 月 12 日

2, 青谷美羽 招待講演「十九世紀日本における修験道の組織と実践の変容」ワークショップ『日本史における神仏習合』、於ハイデルベルク大学カールヤスパースセンター(ドイツ) 2015 年 5 月 30 日

3, 青谷美羽 研究報告「由緒寺院と宮家の距離 年忌法要・陵墓祭をめぐる」、「近代天皇制と社会」研究班、於京都大学人文科学研究所(京都市) 2015 年 3 月 14 日

4, 岡佳子 研究報告「近世京都の御用達と陶土」国際シンポジウム『伝える力 3 京都の土と石ー伝統工芸を支える資源』、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「京都における工芸文化の総合的研究」(立命館大学)・立命館大学アート・リサーチセンター、於キャンパスプラザ京都(京都市)、2015 年 3 月 8 日

5, 岡佳子 研究発表「From Gusoku to Dōgu: The Changing Value of Things」(代読発表)、「Chigusa in Context: In and Around Chanoyu in Sixteenth-Century Japan」, P.Y. and Kinmay W. Tang Center for East Asian Art, San Department of Art and Archaeology Princeton University、於 Princeton University (アメリカ合衆国ニュージャージー州) 2014 年 11 月 8 日

6, 岡佳子 招待講演「Chigusa: Transformations of a Tea Jar」、展覧会「Chigusa and the Art of Tea」関連講座、

於 The Arthur M. Sackler and Freer Gallery of Art: the National Museums of Asian Art at the Smithsonian Institution (アメリカ合衆国ワシントン D.C.)、2014 年 3 月 2 日

7, 岡佳子 研究発表「欧米の美術館・博物館が所蔵する京焼 17 世紀を中心に」、『日仏交流シンポジウム日仏美術と文学の交流 「トロンコワ・コレクション」とその周辺』、大手前大学交流文化研究所、於大手前大学夙川キャンパス(兵庫県西宮市) 2013 年 11 月 23 日

8, 岡佳子 招待講演「Kyoto-ware Potter Ninsei & Chanoyu」 「京焼陶工仁清と茶の湯」, 2nd Ocha Zanmai: 2013 San Francisco International Conference on Chanoyu and Tea Cultures, College of Liberal & Creative Arts, San Francisco State University、於 San Francisco State University (アメリカ合衆国カリフォルニア州)、2013 年 11 月 16 日

9, 岸本香織 研究発表「後桜町天皇の宸翰和歌懐紙(後桜町天皇宸翰和歌懐紙の紹介)」, 後桜町天皇二百年祭記念シンポジウム「女帝の歴史と文学 宸翰を中心に」、於京都産業大学壬生校地むすびわざ館(京都市) 2013 年 7 月 14 日

10, 岸本香織 招待講演「冷泉家の和歌」, 即宗院 5 月講習会、於臥雲山即宗院(京都市) 2013 年 5 月 19 日

〔図書〕(計 4 件)

1, 青谷美羽 むこうまち歴史サークル・向日市文化資料館編『中久世村平松家領分役務記録』、向日市文化資料館、全 52 頁、2016 年、8-43 頁校訂、44-50 頁「幕末の世相と中久世村」執筆

2, 岸本香織 共著 冷泉家時雨亭叢書別巻三『翻刻 明月記二』、公益財団法人冷泉家時雨亭文庫編、朝日新聞社、全 742 頁、2014 年、本文 7-722 頁：赤瀬信吾・上野武他による検討(計 9 人 4 番目)

3, 青谷美羽 首藤善樹・坂口太郎・青谷美羽編『住心院文書』、思文閣出版、全 207 頁、2014 年、1-159 頁(首藤・坂口・青谷の 3 名による翻刻・解説)・202-207 頁「幕末明治の住心院」(青谷解説)

4, 杉田善雄 共編著『史料纂集妙法院日次記』第 24 巻、八木書店、全 360 頁、2013 年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岸本 香織 (KISHIMOTO, Kaori)

大手前大学・総合文化学部・非常勤講師

研究者番号：40440903

(2) 研究分担者

青谷 美羽 (AOTANI, Miu)

京都造形芸術大学・芸術学部・非常勤講師

研究者番号：10578719

岡 佳子 (OKA, Yoshiko)  
大手前大学・総合文化学部・教授  
研究者番号：50278769

(3) 連携研究者

杣田 善雄 (SOMADA, Yoshio)  
大手前大学・総合文化学部・教授  
研究者番号：20368442

(4) 研究協力者

西口順子 (NISHIGUCHI, Junko)  
岡村喜史 (OKAMURA, Yoshiji)  
高橋大樹 (TAKAHASHI, Hiroki)  
水谷友紀 (MIZUTANI, Yuki)